

閉会の挨拶

<司会>

どうもありがとうございました。それでは時間も予定を過ぎておりますので、この辺りで締めさせて頂きたいと思います。

主催の2つの団体、学術会議のグローバル化と法分科会の方では報告書を作って、可能であれば提言のようなものをまとめたいという方向で議論しておりますし、国際法学会の方の国際関係法教育検討委員会では、学会としてどのような教育の改革があらうかという話をこれから詰めていくところでもありますので、このシンポジウムの結果は、学術会議のルート、それから学会のルート等で、何らかの形で皆さんにフィードバックできるような形をとりたいと思っております。

したがって、今後の2つの主催グループのですね、議論の進展にも注目いただいて、ご意見、ご批判等があれば色々な形でいただくということをお願いして、閉じたいと思います。とりわけ報告者の皆さん、実務の長嶺さん、それから片山先生、ご多忙のところ大変ありがとうございました。それではご参加の皆さんにもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後に国際法学会から閉会の挨拶をお願いします。柳原先生をお願いします。

<閉会挨拶・柳原>

予定の時間をもうかなり過ぎておりますので、1、2分で簡単にご挨拶を申し上げたいと思います。

まず主催団体の一つを代表しまして、報告者の皆様、それから多くの参加者の皆様に感謝を申し上げたいと思います。私が思っていた以上に多くの方々、特に若い方にご参加頂きまして、大変有意義な会議になったと思います。

国際法学会といたしましては、現在あります国際関係法教育検討委員会の中で、今日のご議論をうけて、どのような形の報告をいただくかということを検討いただくということになろうかと思っております。

また、現在新しい公益法人に移行するという準備を鋭意進めているところでございますが、新しい法人になった時に、どのような運営体制をとっていくかということも実は今一生懸命議論しているところです。2月初めに運営委員会がありまして、また3月の初めにもあるんですが、新しい委員会、例えばアウトリーチ委員会とか、若手研究者養成委員会とか、あるいは研究開発・振興委員会といったような、今日色々な課題が出ましたけれども、こうした課題を直接担当するような委員会を設けて、議論をしていきたいと思っております。さらには、議論をするだけではないかというのが今日のシンポで出てきたところでもありますので、具体的にどのような政策をとっていけるかということも考えていきたいという具合に思っております。

最後に松井先生を始めといたしまして、「グローバル化と法」分科会のメンバーの方々、それから国際関係法教育検討委員会のメンバーの方々、本当にどうもありがとうございました。